

科目名	連続体力学		英文表記	Continuum Mechanics		2011/3/14	
科目コード	6106						
教員名：比嘉 吉一 技術職員名：						作成	
対象学科／専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
創造システム工学専攻・機械システム工学コース			専1	選	学修	2単位	講義
目標及び評価方法	目標項目			評価方法及びその割合			
	①スカラー，ベクトル，テンソルの物理的意味を理解する			①宿題レポートにより判断する（30%）			
	②運動法則と保存則について理解する			②宿題レポートにより判断する（30%）＋期末試験により判断する（70%）.			
	③物質の力学的挙動を記述する各種構成式を学修することにより，固体力学，流体力学，熱および物質移動との関連性について理解する			③宿題レポートにより判断する（30%）＋期末試験により判断する（70%）			
高専目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称		機械システム工学
	○		◎		JABEEプログラム教育目標		A-1, A-2, A-4, A-5, B-1, B-2, B-4, C-3
授業概要、方針、履修上の注意	質点系，剛体等を取り扱う基礎力学に始まり，本科で学んだ材料力学，熱工学，流体力学，機械力学等で学んだ個々の力学を改めて統一的に見直すことで，それら力学に共通する概念および取り扱いについて理解する．本講義では，これらの多様な分野の問題を統一的に取り扱う手法である連続体力学の基礎を学修することを目的とする． 本講義では，教科書の内容を逐一説明する授業を行なうわけではない．受講者はシラバスを参考に，教科書，参考図書を十分に予習して講義に臨むこと．また，授業後は講義内容の復習を怠らないこと．						
教科書・教材	富田佳宏著，連続体力学の基礎，養賢堂 [参考図書] 久田俊明著，テンソル解析の基礎，丸善，徳岡辰雄著，有理連続体力学の基礎，共立出版						
<b>授 業 計 画</b>							
回次	授 業 項 目	時間	授 業 内 容			予 習 項 目	
1	連続体力学の概要，マトリクス代数	2	連続体の考え方，マトリクスの演算，総和規約，固有値と固有ベクトル，ケーリー・ハミルトンの定				
2	ベクトル(1)	2	加法，座標系と基本ベクトル，スカラー積とベクトル積				
3	ベクトル(2)	2	ベクトルの変換，積分演算子				
4	テンソル(1)	2	テンソルの定義，四則演算，商法則				
5	テンソル(2)	2	固有値と固有ベクトル，微分，ガウスの発散定理				
6	変形とひずみ(1)	2	粒子の運動と座標系，変位と変位速度，時間導関数				
7	変形とひずみ(2)	2	ひずみおよびひずみ速度，ひずみの適合条件，ひずみの不変量				
8	応力とつりあい方程式(1)	2	物体に作用する力とつりあい方程式，応力テンソル				
9	応力とつりあい方程式(2)	2	Cauchyの式とつりあい方程式，応力の不変量				
10	保存則と支配方程式(1)	2	体積積分と物質導関数，質量保存則，運動量保存則				
11	保存則と支配方程式(2)	2	角運動量保存則，エネルギー保存則				
12	構成式	2	完全流体，ニュートン流体，線形弾性体，線形熱弾性体				
13	連続体の境界値問題(1)	2	連続体の支配方程式，Navier-Stokesの方程式				
14	連続体の境界値問題(2)	2	Navierの方程式，熱伝導方程式				
15	境界値問題と変分原理	2	変分原理の概要，支配方程式と変分原理				
期末	期末試験	[2]					
学習時間合計			30	実時間		25	
学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など） 各单元ごとに教科書章末問題をレポートとして課す（計8回）．							